

2023年3月期決算に関するFAQ

※ ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、I R室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

Q1. 主な事業の足元の状況はどうか。

当社鉄道事業	改札通過人員【4月1日～16日】 定期 82%程度、定期外 2018年度並みで推移 ※ 2018年度比
小田急百貨店	売上高【4月1日～16日】 新宿店 25%程度、町田店 2019年度並み、ふじさわ店 85%程度で推移 ※ 2019年度同日比 ※ 新宿店本館は2022年10月2日で営業を終了し、10月4日新宿西口ハルクをリニューアルオープン（売場面積は2割程度に縮小）。また、12月1日小田急エースに「SHINJUKU DELISH PARK」をオープン
シティホテル	稼働率【4月1日～16日】 ホテルセンチュリーサザンタワー 91.7%
箱根エリア	箱根湯本駅改札通過人員【4月9日～15日】 平日 87%程度、土休日 81%程度で推移 ※ 2018年度同週比
	箱根リゾートホテルの稼働率【4月1日～16日】 70%程度で推移 ※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、はつはな

Q2. 小田急電鉄 鉄道事業において2023年度の輸送人員をどのように見ているか。コロナ前の水準にはいつ戻るのか。

- ・ コロナ禍からの社会経済活動の正常化に伴い輸送人員も緩やかに回復するものと考えられるが、テレワークをはじめとする新たな生活様式の定着により、2023年度の輸送人員は2018年度比で△12%程度と想定している。
- ・ こうした生活様式の変化は恒久的なものであると考えられ、2024年度以降もコロナ前の水準までは回復しないと想定しているが、引き続き日常のお出かけ機会の創出や、箱根・江の島エリアをはじめとする観光需要の創出に向けて取り組んでいく。

**Q 3. 2022 年度における動力費の動向はどうであったか。また、今後の動向をどのよう
にみているか。**

(2022 年度実績)

- ・ 当社鉄道事業の動力費は対前年約 23 億円、バスおよびタクシー各社の燃料費は対前年約 2 億円増加した。

(2023 年度予算)

- ・ 燃料価格の見通しが不透明なため、当社鉄道事業の動力費は直近の水準が概ね継続するものとして計画を立ており、対前年約 13 億円の増加を見込んでいる。
- ・ なお、バスおよびタクシー各社の燃料費は対前年約 1 億円の増加を見込んでいる。

Q 4. グループ各社を含めた運賃改定の状況は。

会社名		影響額 (概算)		実施日
		2022 年度 実績	2023 年度 予算	
鉄道業	小田急電鉄 (特急料金値上げ)	2.7 億円	5.6 億円	2022 年 10 月 1 日
	箱根登山鉄道	1.0 億円	2.1 億円	2022 年 10 月 1 日
	小田急電鉄 (バリアフリー料金制度)	1.2 億円	48 億円	2023 年 3 月 18 日
バス業	箱根登山バス	1.2 億円	1.7 億円	2022 年 10 月 1 日
	江ノ電バス	軽微	3 億円	2023 年 3 月 18 日
	小田急ハイウェイバス (箱根線)	—	0.7 億円	2023 年 4 月 1 日
	小田急バス (川崎市内)	—	0.7 億円	2023 年 5 月 15 日
その他	小田急交通	0.7 億円	2 億円	2022 年 11 月 14 日

Q 5. 2023 年度に投資用不動産 4 件計上予定とあるが、どのようなものか。また、来年度以降拡大していく計画なのか。

- ・ 物流施設 1 件 (愛知県一宮市)、賃貸レジデンス 3 件 (南大井、大森、経堂) を予定している。また、来年度以降も年間数件を計上していく計画である。

Q 6. 各ホテルの 5 月以降の予約状況を教えてほしい。

- ・ 5 月以降の稼働率は、シティホテルで 90%程度、箱根リゾートホテル[※]で 70~80%程度と想定している。

※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、箱根ハイランドホテル、はつはな

Q7. インバウンドの回復状況はどうか。

(足元のインバウンド回復状況)

- ・ 外国人旅行者窓口（小田急旅行センター）における、2023年3月の箱根フリーパス発売枚数は、コロナ前の2019年同月比では70%程度の回復であるが、入国制限緩和前の2022年9月比では約25倍と回復傾向が顕著である。特に、韓国、香港、台湾、シンガポールからの観光客が増加傾向にある。
- ・ シティホテルの2023年3月の外国人宿泊者比率は80%程度と、コロナ前の2018年度並みとなっている。

(インバウンド施策)

- ・ EMot オンラインチケットの多言語対応により、スマートフォンで箱根や江の島エリア等のデジタルチケット購入・利用を可能にした。加えて、インバウンド旅客にとって使い慣れたクレジットカードのタッチ決済を2023年4月より江ノ島電鉄の全駅で運用を開始したほか、2023年夏頃に箱根エリアの一部交通網にも導入する予定である。これらにより、切符購入のストレス解消や駅窓口の混雑緩和等を図り、スムーズに旅行を楽しめる環境整備を進めていく。
- ・ 「自然体験」をテーマに新たな箱根の楽しみ方を地域事業者等と共創発信していくプロジェクトの拠点となる「HAKONATURE BASE（ハコネイチャー ベース）」を箱根の玄関口・箱根湯本に開業し（2023年4月）、箱根DMO公認ガイドらによる箱根の自然や歴史、文化に触れられるツアーを国内旅客だけでなくインバウンド旅客向けにも実施する予定。
- ・ 今後は、引き続きオンラインを中心とした広告の展開をはじめ、JNTOや沿線自治体と連携した情報発信、EMot オンラインチケットでの外国人対応を拡充していく。

注意事項

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは開示時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以 上